

出張調査報告書

会派名 公明党会派
代表者名 村岡 卓 様

下記のとおり出張調査しましたので、報告いたします。

令和 8 年 / 月 20日

期 日	令和 8 年 1 月 14 日から令和 8 年 1 月 15 日まで		
出張調査先	(出張先)	(具体的調査項目)	
	南九州ペレットバンク合同会社	木質バイオマスについて	
	一般社団法人ツノスポーツコミッション	スポーツを起点とした地域課題解決への取り組みについて	
出張者氏名	村岡 卓 	中島 妙子 	野中 宣明 
	吉川 正剛 	印	印
	印	印	印
用 務 内 容 及 び 所 見	○1/14（水）14:00～南九州ペレットバンク合同会社（宮崎県児湯郡都農町） ・挨拶 村岡会派代表 ・調査項目について、河野章弘代表取締役様からご説明 ・質疑応答 ・工場内視察（都度、設備説明および質疑） ・挨拶 村岡会派代表 ○1/15（木）9:00～一般社団法人ツノスポーツコミッション（宮崎県児湯郡都農町） ・挨拶 村岡会派代表 ・調査項目について、石原英明代表理事様からご説明 ・質疑応答 ・ツノスポーツアカデミー選手寮「矢研寮」館内視察（都度、説明および質疑） ・挨拶 村岡会派代表 ※所見は別紙の通り		

公明党会派 出張視察報告書

令和8年1月20日

報告者：公明党会派 村岡 卓

参加者：公明党会派（村岡 卓、中島妙子、野中宣明）計4名

視察日程：令和8年1月14日(水)～1月15日(木)

視察先：南九州ペレットバンク合同会社、都農スポーツコミッション（宮崎県児湯郡都農町）

★南九州ペレットバンク合同会社

視察内容◎バイオマス転換事業

- ◎スポーツコミッションにおける受け入れ先等について
- ◎その他の取組（エアー圧送運搬車、都農町「CO2 ゼロ宣言」等）

【所感】

南九州ペレットバンクは平成27年に都農ペレット工業株式会社として、当時の原油高による施設園芸用燃料の代替として木質ペレットを、宮崎らしいエネルギーの地産地消と力強い施設園芸産地の確立を図るため設置された。

その後高騰した燃料価格が暴落し、危機を迎えることもあったが認証制度の取得など徹底的な品質管理のもと全国で3番目となるAクラスを取得され、消費者に安心感を与えながら事業を行なわれている。

また、燃料としての木質ペレットのみならず、化粧品素材として活用され、長年の研究開発を経て植物由来のフラーレンの取り組みにも事業を広げられている。

製造過程を実際に工場で見学させていただきましたが、小規模ながら着実に町で根付いて活躍いただいている様子が感じ取れた。佐賀市の森林はすでに活躍可能な段階まで成長しており、純粋な建築木材としての用途はもちろんのこと、間伐等出てくる木材の利活用が求められてきた。すでに木質ペレットストーブの燃料の製造など取り組まれているが頭打ちの感は否めない。

そこで今回伺った中で、畜産向けの敷き材として木質ペレットを活用されている事例を示していただいた。衛生面の管理もしやすく生産性も向上した旨のお話だった。これも徹底した品質管理の賜物で、質の高いものから、①施設園芸ハウス暖房用②家庭用ストーブ用③畜産向け敷き材と分けて販売先を細分化されている。製造の過程でどうしても出てしまう規格外製品を商品として価値づけをし新たな収入とする取り組みはすぐにでも実践が可能なのではないかと感じた。

また、こちらでは都農町スポーツコミッションで移ってきた子どもたちの働き場として受け入れを行っており、地元の働き手の確保と若者の収入の場としてお互いの足りない点が補える関係性になっている。この点はこの後の報告に述べたいと考える。

★宮崎県児湯郡都農町

視察内容「都農スポーツコミッションについて」

- ◎スポーツコミッションの機能と役割
- ◎つの職育プロジェクトを起点とした都農町のスポーツまちづくり
- ◎プロジェクトの成果 他

【所感】

都農町では人口減少と高齢化、担い手不足の深刻化、高校の閉校による影響を背景とし、「スポーツ」を“手段”として活用し、「まちづくり」という“目的”を実現する取り組みを検討する中で、庁内横断的に設計・調整・実装できる専門組織として「スポーツコミッション」の必要性が示された。

佐賀市で子どもたちを中心にスポーツをどのように生活に落とし込んでいけるかの過渡期に来ている。その手始めが中学校部活動の地域展開であるのだが、佐賀市という大きな地域で様々なスポーツを一括りにして考えることの不合理さは認識されているものの、各々のスポーツにおける地域分布があまりにも偏っているため地域設定の妥当性が設定しづらい状況にある。

都農町においては町内唯一の高校が閉校になることにより、地域から若者が少なくなり、バイト等の若手の働き手がいなくなってしまうという課題があり、スポーツを入り口とした「つの職育プロジェクト」としてJリーグを目指すJ.F.C M I Y A Z A K I（現ヴェロスクロス都農）と連携協定を結び若者を呼び込んできた。若者と地域をスポーツで繋いでいく取り組みは、スポーツを核とした地域づくりの理想的な形ではないかと考える。今は通信系の学校も増え、スポーツをある程度メインに置きながら学ぶ道も閉ざさず、地域の働き手としても貢献して収入を得ることができる形が可能となり、三者それぞれにメリットを享受できる仕組みとして成立させていけることが示されたと感じることができた。

ここで大切なのは、サッカーという競技における優位性で成り立っているのではないと感じた点である。例えば北海道の北見市は選手の活躍によってカーリングの町というイメージを植え付けることができている。佐賀市では国スポ・全障スポを大きな契機として様々なスポーツ施設も整備がなされてきた。北部地域でいえば嘉瀬川ダムを活用した湖面スポーツやスポーツ合宿を中心に受け入れができる古湯キャンプなどポテンシャルは高い。また佐賀ブルーナースのホームタウンである点を最大に活かして若年層の指導に繋げていけば大きな効果が見込めるのではないかと考える。総合的なスポーツクラブとして様々なスポーツの指導が行える環境を作ることによって部活動の新たな受け皿になるのではないかといいところまで視野に入れることができる。

まずはスポーツコミッションとして佐賀市としてスポーツの活かし方を整理し、まちづくりの中に位置付けていくことが重要だと感じたのでこの点を共に推進していきたいと考えている。

令和8年1月17日

公明党会派視察 所感

公明党会派 中島妙子

日程：令和8年1月14日（水）～1月15日（木）

視察先：宮崎県児湯郡都農町内の2箇所

○南九州ペレットバンク合同会社 ○一般社団法人ツノスポーツコミッション

目的：九州での事業の先駆者である南九州ペレットバンク合同会社の事業内容と、そこへ人材を派遣するなど、お互いの課題解決の関係を構築しているツノスポーツコミッションを、地域との関係性も含めての視察

○南九州ペレットバンク合同会社

木質ペレットが普段の生活では身近にないためネットで検索したところ、【原料】間伐材や製材端材、おがくずなどを粉碎・圧縮もの、【用途】ペレットストーブやボイラーの燃料、猫砂など、【特徴】CO2排出量が少ない、着火性・発熱量が高い、扱いやすい、とあった。持続可能性にあふれ、これからの時代に必要なものであると大変関心をもった。

現地ではペレットストーブを準備してくださっており、工場を見学する前に南九州ペレットバンク合同会社支店長河野章弘様より野外で講義をしていただいた。全国にはペレット工場が142社あり、そのうち一般社団法人日本木質ペレット協会の認証工場はたったの8社。平成28年に全国で3番目に認証Aを取得されている。購入し、利用されるお客様に質の高いペレットをお届けしたいと品質の管理を徹底されていた。

操業から今日に至るまで、大変な企業努力をされて今があるということを笑顔で話をされたことに感銘を受けた。今も常に試行錯誤されており、今よりもより質の高いペレットを製造するため工夫をされていた。

未利用資源の有効活用や、カーボンニュートラルな再生可能エネルギーとして注目されてい

るが、これだけの良質なペレットを製造することは大変な技術が必要であり、また湿気や衝撃に弱いなどの特徴もあるとのこと。今後更なる研究が必要かと考えるが、本市でもこのように持続可能な活用ができるようさまざまな角度から検討していくべきと考える。

○一般社団法人ツノスポーツコミッション

中学校の部活動地域移行に関する取り組みの視察で伺ったが、想像をはるかに超える取り組みに衝撃を受けた。一般社団法人ツノスポーツコミッション代表理事石原英明様より説明をいただいたが、冒頭、スポーツまちづくりの目的と手段ということで、スポーツを手段として活用し、まちづくりという目的を実現する取り組み、つまりスポーツ振興が目的ではなく、まちづくりが目的である、との話をうかがい、このような理念が根底にあるからこそこの事業が成功しているとの思いをもった。この取り組みを実現するためにさまざまなことにチャレンジされており、これまでご苦勞のほうが多かったに違いないが、事業に携わっているかたが目的に向かい、心ひとつに事業に専念されている様子が伝わった。だからこそ、優秀なスタッフがこの地に集結されていると思った。

一般社団法人ツノスポーツアカデミー河野様からも新しい時代の、新しい学校・サッカークラブの説明をいただいた。視察先でもある矢研寮にはＪリーグを目指す１４名のこどもが勉強・生活をしている。「良き社会人であれ」との育成哲学のもと、サッカー、生活、教育、職育、地育の５つの柱を掲げ、サッカーの向上だけではなく、人としての成長を目指している。よく考えられた内容で、大変興味深く話を伺い、最後に寮内の見学もさせていただいた。

一つ一つの事業も都農町ならではのものであり、本市でおこなうには佐賀市でしかできないことを考えなければいけない。今後もし佐賀市も同じようにスポーツコミッションを立ち上げるとすれば、手段と目的を明確にし、都農町のように専門性をもったスタッフの集結（人材確保）が不可欠と考える。

以上

視察報告

野中宣明

宮崎県都農町（令和 8 年 1 月 14 日）

「南九州ペレットバンク合同会社」

（所感）

南九州ペレットバンク合同会社は九州において木質バイオマス燃料となるペレット事業を先進的に行われてきた。木質ペレットとはストーブやボイラーの燃料として使用するものであり、木材の粉碎・乾燥・ペレット化・出荷までの一連の工程を自社で行われている。令和 6 年度の実績として木材取扱量は 5,500 トン、ペレット製造量が 2,000 トン、畜産向けおが粉 1,500 トンとなっている。その販売先はフレコン単位で施設園芸ハウス暖房機燃料として JA 宮崎経済連へ出荷。また 10kg の小袋単位で家庭用ペレットストーブ燃料として九州・山口管内の代理店やホームセンターへ出荷。さらに畜産向け敷材用として規格外製品を JA 関連企業やブローラー業社へ販売されている。特にペレットストーブ用燃料出荷実績が平成 29 年から現在までに 230%伸びていた点に注目した。

原油価格高騰の中で木質バイオマス燃料であるペレットの活用は魅力的であるものの、灯油以下の価格であることや専用のストーブやボイラーの設置購入費用が安価であることが条件となる。域内で地域資源を活用するバイオマスの仕組みが構築できればエネルギーの地産地消として非常に魅力的なものとなる。佐賀市でも北部中山間地域を中心に施策推進に向けて長年検討されているが、ペレットの販売単価を下げるためには安定供給の仕組みが必要であるため、宮崎県で取り組まれてきた施設園芸ハウス暖房機設置の補助事業やその仕組みを参考にし、ペレットストーブの購入費補助制度の創設などを研究した上で行政と民間、地域を交えて域内でのペレットの流通促進を図る取り組みを引き続き検討を重ねていきたい。

宮崎県都農町（令和 8 年 1 月 15 日）

「一般社団法人ツノスポーツコミッション」

（所感）

スポーツコミッションとは、地域の様々な社会課題をスポーツの力を活用して解決することを目的とし、行政・スポーツ団体・民間企業・団体等が一体となったネットワークの組織である。佐賀市における今後の推進に向けて、先進地である宮崎県都農町の「ツノスポーツコミッション」の取り組みについて調査を行なった。

宮崎県都農町ではサッカークラブであるヴェロスクロノス都農に所属する多くの選手が地域おこし協力隊として移住されている。この選手たちは練習の傍ら農家の繁忙期の支援やテストファームでの農作業の他、福祉事業、若年層の選手育成につながるアカデミーの運営、まちの魅力発信など人口減少や高齢化の進行などに生じる地域の様々な課題の解決に取り組まれている。

佐賀市の北部中山間地域と環境や課題が類似しているため、都農町の取り組みはスポーツの力で地域課題を解決する好事例として有効な手立ての一つであり、また佐賀市の全ての中学校部活動地域展開において安心安全で持続可能な学校に代わる受け皿としてスポーツコミッションが担えるのではないかと感じた。今後スポーツコミッション設立を目指して取り組むには、佐賀市としてはやはり外部の専門的知識を持つ人材の登用が必要不可欠であり、アドバイスだけでなく伴走支援を受けながら進めていくことと同時に市役所内でのスポーツコミッションの位置づけを明確にしていかなければならないと感じた。

そのためには、市役所の各部署が抱える地域課題をスポーツを活かして解決できないかという視点で、それらの課題を共有していくことが最も重要である。佐賀市では令和 7 年度においてスポーツコミッションの研究をとおして課題整理が行われてきているため、今後は「設立に向けた本格的な準備」をスタートできるよう目標設定や進め方等について次回の定例会でしっかり議論を行なっていきたい。

視察報告書

令和8年1月16日

公明党会派 吉川 正剛

視察日程 令和8年 1月14日（水）～1月15日（木）

視察先 ①

「南九州ペレットバンク合同会社 都農支店」 所在地：宮崎県児湯郡都農町

対応者：河野 章弘 代表取締役 ほか関係者

目的・内容

木質バイオマス燃料（木質ペレット）の製造・供給体制および施設園芸等への活用状況を調査し、本市における農業振興、燃料費対策、脱炭素施策の検討に資することを目的として視察を行った。

同社都農支店では、地域の間伐材や製材端材などの未利用木材を活用し、木質ペレットの製造・供給を行っている。当日は、会社概要、製造工程、これまでの実績および関連する取り組みについて説明を受けた後、河野代表の案内のもと工場見学を実施した。実際に稼働中の設備を確認するとともに、現場作業員の方々から直接話を伺うことができた。

視察を通じて得られた知見

- ・ 本事業は、施設園芸用暖房燃料を化石燃料から木質バイオマスへ転換する取り組みであり、燃油価格の高騰や価格変動、未利用森林資源の活用、地球温暖化対策といった複数の課題解決を同時に目指している。これにより、施設園芸農家の経営安定、林業県宮崎ならではの「エネルギーの地産地消」、低炭素社会への貢献を図っている。
- ・ 農業分野と林業分野の連携強化を目的として、分野の垣根を越えた「施設園芸木質バイオマス利用促進協議会」を設置している。
- ・ 施設園芸ハウス暖房機燃料としての需要は減少傾向にある一方、家庭用ペレットストーブ燃料としての店舗販売は年々増加しているとのことであった。また、規格外となったペレットを畜産向け敷材として販売しており、その売上も好調である。

所感

本市においても、森林資源の有効活用と農業経営支援を両立させる観点から、木質ペレットを施設園芸用燃料として導入することは大きな意義があると考えられる。今後は、初期導入コストへの支援策や、燃料の安定供給体制の確保について検討を進める必要があると感じた。ペレットストーブを宅内で利用する場合、木質ペレットのランニングコストや排気への対応といった課題がある。そのため、特別感や高級感を打ち出し、富裕層を主なターゲットとした販売

戦略に絞ることも一案ではないかと感じた。一方で、本事業は地域資源を循環させながら農業振興と環境配慮を同時に実現する取り組みであり、本市の持続可能な地域づくりを進める上で、大変参考となる有意義な視察であった。

視察先 ②

「一般社団法人ツノスポーツコミッション」 所在地：宮崎県児湯郡都農町
対応者：石原 英明 代表理事 ほか関係者

目的・内容

本視察は、宮崎県都農町における「つの職育プロジェクト」を起点としたスポーツを活用したまちづくりについて、その事業構造および地域スポーツコミッションの機能・役割を把握するとともに、人口減少や担い手不足といった地域課題に対し、スポーツをどのように施策として活用しているかを確認し、今後の地域施策検討の参考とすることを目的として実施した。

視察を通じて得られた知見

(1) ツノスポーツコミッションの機能・役割

ツノスポーツコミッションは、単なるスポーツイベントの実施主体ではなく、地域全体を俯瞰しながら人・事業・組織をつなぐ中間支援組織として機能している。主な役割は次のとおりである。

- ① スポーツや地域資源を活用し、人材や事業、企業が都農町に関わるきっかけを創出すること。
- ② 地域内外の人や組織をつなぎ、連携と協働を促進する調整役を担うこと。
- ③ 呼び込んだ人材や事業が一過性に終わらず、地域に定着し自立していくための継続的な支援を行うこと。

これらの機能を通じ、スポーツを軸とした地域経営の中核的役割を果たしている点が特徴である。

(2) つの職育プロジェクトの概要

「つの職育プロジェクト」は、都農町、ヴェロスクロノス都農（サッカークラブ）、ツノスポーツコミッションが連携・協力し、地域資源や人的ネットワークを活用しながら、移住・定住の促進と人材育成を目的として展開されている取組である。

町内の農業、商業、工業、福祉など、労働力不足が深刻な分野において職場体験の機会を提供し、若者が地域と関わりながら自分に適した職業を見つけ、将来的に地域の担い手として定着することを目指している。スポーツを入口としながらも、最終的には産業振興や雇用創出につながっている点に大きな特徴がある。

(3) ツノスポーツアカデミーの取組

2021年3月に町内唯一の高校が閉校したことを受け、都農町では新たな学びと育成の場として「ツノスポーツアカデミー」を創設・運営している。

本アカデミーでは、ヴェロスクロノス都農のアカデミーに所属して競技力向上を図るとともに、矢研寮での集団生活による生活力の育成、通信制高校との連携による学習機会の確保、セカンドキャリアを見据えた職業経験（職育）、地域活動への参加（地育）を一体的に実施している。

「良き社会人であれ」という育成哲学のもと、若者が都農町で夢を追いながら成長し、地域全体で若者を育てる仕組みが構築されている。

所感

本取組は、スポーツを「目的」ではなく「手段」として活用し、地域活性化、移住定住促進、教育、産業振興といった複合的な課題解決を図るものであり、従来のスポーツ振興とは一線を画す先進的な取組であると感じた。

人口減少や少子高齢化により、地域産業の働き手や後継者、さらには地域行事の担い手不足が深刻化する中、プロジェクトから派生した取組として、タイミー（スキマバイトマッチングサービス）との連携が行われている点は特に注目される。ハローワークに人が集まりにくい現状や、年齢制限がなく在職中の人も土日等に利用できる利便性を活かし、人手不足解消、雇用促進、移住促進に取り組んでいる。他自治体でも同様の取組が広がっているとのことであり、実効性の高い手法であると考えられる。

現在、クラブ・アカデミー関係で約150名が都農町に移住しており、包括連携協定の締結などを通じて、地域全体で柔軟な働き方を支える仕組みづくりが進んでいる。日常的な関わりの中で、スポーツを軸とした多世代交流や若者の地域参画が定着している点も印象的であった。

アカデミーの学生が町内事業所で働く姿からは、地域の各事業者や団体が若い世代を育てように関わり、その思いに学生が応えようとする好循環が感じられた。当市においても、大人世代が若い世代を育てる意識を持ち、どのような取組がその土壌づくりに資するのかを検討していく必要があると強く感じた。